

# 多文化社会学部シンポジウム

## 日本社会の移民新時代を迎えて —九州の現実から移民政策を問う—

グローバル化時代において、人・モノ・情報の流れはますます活発化すると言われて久しい。日本では本年4月に入国管理局が出入国管理在留管理庁へ格上げされ、単純労働を認める「特定技能」の在留資格が創設されるなど、日本国内の外国人受け入れにかかわる政策は大きな転換点を迎えた。少子化、高齢化が進み、労働人口の減少が進み始めた日本では、今後経済を支える労働力の確保のためにも、また介護や看護など社会保障制度や医療福祉の制度を維持するためにも、移民の受入は不可避であろう。この状況は、すでに日本国内で生活する外国人数に反映されている。中長期滞在の外国人数は273万人に上り、外国にルーツを持つ者を加えると400万人近くになり、今後も増加が予想される。かれらが当たり前に住み、働き、暮らす権利を与えられ、さらに社会に活力と文化的豊かさを与え、多様性をもって日本人を含めたすべての人が共生していく場を実現するために、本シンポジウムでは、九州地域からの問題提起と提言を目指す。

### 第Ⅰ部 基調講演：日本多文化共生社会の到来 (60分)

#### Part 1 “The Arrival of Multicultural Society in Japan”

小井土 彰宏

一橋大学社会学研究科

新自由主義的移民政策の潮流の中で  
改定入管法を考える

(30分)

李 節子

長崎県立大学

新多文化共生時代における母子保健のあり方 (30分)

司会／見原 礼子（長崎大学多文化社会学部）

### 第Ⅱ部 シンポジウム：移住者の現状と課題 (80分)

#### Part 2 “The Current Status and Challenges for Migrants in Kyushu”

平野 裕子

長崎大学生命医科学域

EPA看護・介護職の離職から見える  
日本の医療福祉業界の限界

(15分)

ラタナーヤカ・ピヤダーサ  
サーリヤ・ディ・シルバ

佐賀大学経済学部

アジアの人的資源育成と貧困軽減に対する  
日本の技能実習制度の貢献～帰国実習生に  
関する実態調査

(15分)

柚之原 寛史

長崎インタナショナル教会

外国人収容施設で起きた餓死事件の現場から  
入管制度と日本社会を見つめる

(15分)

竹村 朋子

外国から来た子ども支援ネットくまもと

外国人散在地域の外国にルーツを持つ子どもの  
学習と居場所

(15分)

パネルディスカッション

(20分)

司会／賽漢卓娜（長崎大学多文化社会学部）